

令和4年度

「県・市町村青少年
相談担当者・東毛地区研修会」

アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和4年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会・東毛地区 アンケート結果

日時 令和4年7月28日(木)

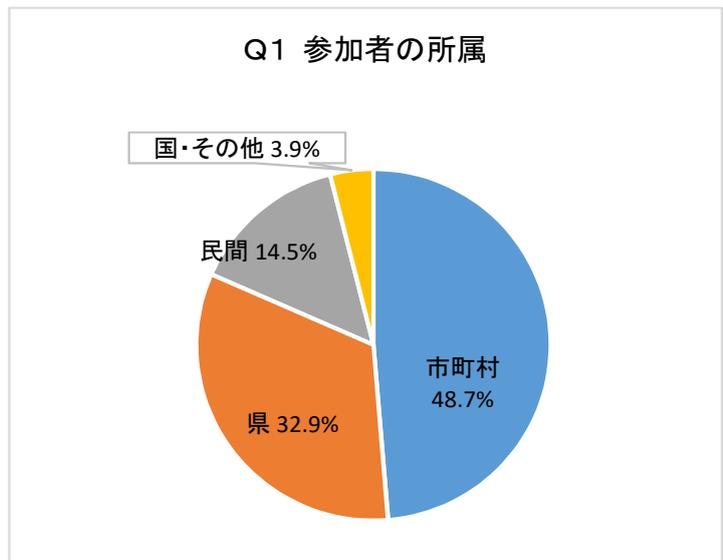
13:00~16:10

会場 邑楽町中央公民館

○研修参加者 90 人
 ○回答者 76 人
 ○回答率 84.4 %

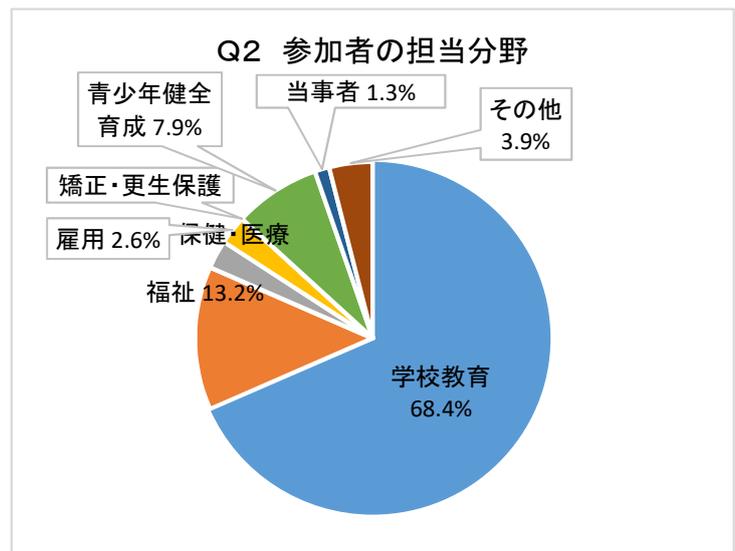
Q1 回答者の所属

| | 人数 | 割合 |
|-------|----|-------|
| 市町村 | 37 | 48.7% |
| 県 | 25 | 32.9% |
| 民間 | 11 | 14.5% |
| 国・その他 | 3 | 3.9% |
| 合計 | 76 | |



Q2 回答者の担当分野

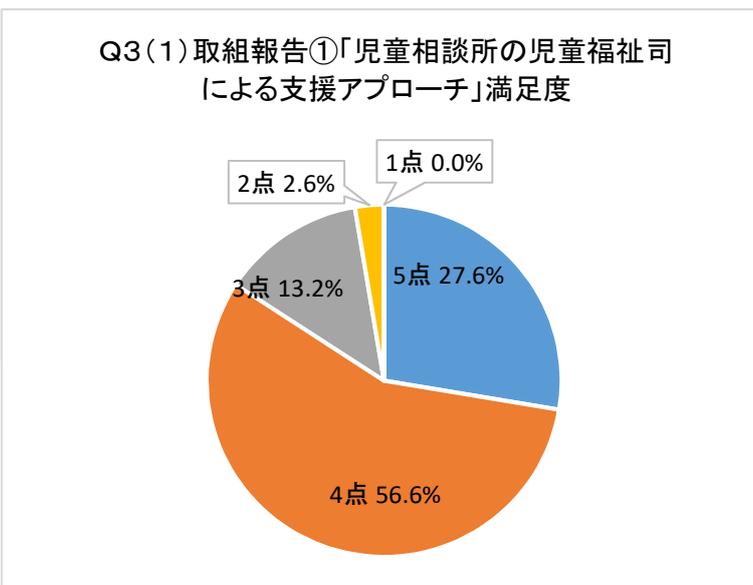
| | 人数 | 割合 |
|---------|----|-------|
| 学校教育 | 52 | 68.4% |
| 福祉 | 10 | 13.2% |
| 保健・医療 | 2 | 2.6% |
| 雇用 | 2 | 2.6% |
| 矯正・更生保護 | 0 | 0.0% |
| 青少年健全育成 | 6 | 7.9% |
| 当事者 | 1 | 1.3% |
| その他 | 3 | 3.9% |
| 合計 | 76 | |



Q3(1) 取組報告①「児童相談所の児童福祉司による支援アプローチ」

報告者 東部児童相談所 家庭支援第一係長(児童福祉司)工藤 智子氏

| 満足度 | | 人数 | 割合 |
|------------------|----|----|-------|
| 高 ↑ ↓ 低 | 5点 | 21 | 27.6% |
| | 4点 | 43 | 56.6% |
| | 3点 | 10 | 13.2% |
| | 2点 | 2 | 2.6% |
| | 1点 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | 76 | |



○意見・感想等

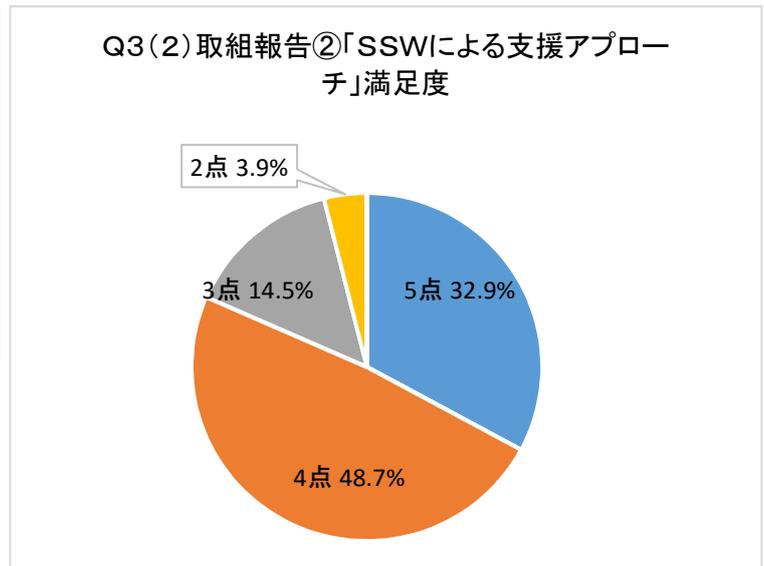
| | |
|----|---|
| 1 | 事例紹介の内容がとても具体的でした。高校の教員ですが学校が関われない領域について話を聞くことができ大変良かったです。 |
| 2 | 学校現場にいと児相に連絡をした方が良いのか、連絡すると生徒が学校に来られなくなるのではないかと、親御さんに怒られてしまうのではないかと心配になることがたまにあります。事例を聞き相談するだけでも電話を試みようかと少しハードルが下がりました。 |
| 3 | 児相の説明が長かった。もう少し事例を聞いたかった。でも立場上詳しくは言えないかもしれない。 |
| 4 | ぐんま学園から通学している生徒のことで児相と連携している。 |
| 5 | 学校現場では児相はなかなか身近ではありません。実はもっと頼ったり情報交換の共有をしたりする必要のある場だと思いました。 |
| 6 | ネコがキーワードでした。保護者の養育能力もなく子どもの可能性がつぶれそうな時に児相の方にお世話になったり、一人の生徒が親元を離れ元気に学校に通えるようになりました。一番下の妹は未だ親元で暮らしています。登校も少なく心配です。 |
| 7 | 里親システムについて初めて知りました。短期でもやりたいと思いました。仕事をしていて昼間家にいないと難しいですね |
| 8 | いざという時に誰に頼ることができるかを考え、どことつなげていけるかが大切だということがわかりました。 |
| 9 | 過去に薬物を使用し実子を少し監禁し、一週間学校と連絡が取れなかったため(児相と)連携しているのを目の当たりにしました。 |
| 10 | ネグレクト事例、虐待事例で一時保護していただきました。 |
| 11 | 市の子育て相談課と市教委教育研究所、相談員と情報交換ができている。 |
| 12 | とっても聞きやすい声でした。あんな風に安定した感じでお話しして下さるんだなあ、子どもたち安心できるだろうなあ・と思いながら聞かせていただきました。もう少し事例(Aさんのこと)を詳しく聞きたかった。 |
| 13 | 事例をあげてお話ししていただき良かったです。 |
| 14 | 事例をもっとうかがいたいです。 |
| 15 | 具体的な事例で介入が分かりやすかった。 |
| 16 | 自殺企図のある母親、不登校の中学生の関係について一時保護になったケースがありました。また、今回改めて児相の役割を把握することができ大変勉強になりました。 |
| 17 | 非行(中3男子)親の言うことをきかない。親の財布からお金を抜き取り使ってしまう。親の警察への通報で一時保護。虐待(中3女子)母親の交際相手からの性的虐待、SCへの相談で一時保護。 |
| 18 | 具体的な事例が分かりやすく良かったです。 |

| | |
|----|---|
| 19 | 具体的な事例が聞けて参考になりました。 |
| 20 | 具体例をあげて報告して下さったので、とても分かりやすく児相が果たしている役割がイメージし易かった。高崎市は現在、救援センターと西部児相が共存しており、二重行政のためケースによってどちらにつなぐのが良いのか難しい場面がある。支援内容が重複しているところもあるので、児相本来の業務内容が再認識できた良かった。 |
| 21 | 事例をあげての説明だったのでわかり易かった。 |
| 22 | 連携をとることでもうまくいくこともあれば、思うような結果につながらないこともあります。逃げずにやるしかないと思って子どもたちに接しています。 |
| 23 | 「身近に相談できる人がいるといいですね。」という話がありましたが、具体的にどなたがつけてくださるのか、学校では具体的にどうしたら良いか分からずに困っています。どのくらいの実例で、まずはどこへ相談したらいいか知りたいです。私ももう少し勉強してみます。 |
| 24 | 大変勉強になりました。障害児相談支援専門員なので何度か東部児相と関わりを持ったことがあります。ケースによって情報共有の難しさを感じたときがありました。一緒に動く進捗を教えて下さる場合と、連携をを臨まれていないのかなと感じたケースもありました。 |
| 25 | 児相の大変さは常に感じています。相談するときは学校は教委経由でお願いしなければならないのか、どこかで伝えてもらえるとありがたいです。 |
| 26 | お話の中できっかけ作り、この人に頼ろうと思える人の存在が本人・保護者が変わるキーワードというのが印象に残りました。 |
| 27 | 一時保護、相談などでお世話になっていた子ども、保護者がありました。お世話になりました。コロナ禍でストレスを抱えている親子も増えてお世話になる子どもも増えているのでしょうか。仕事とはいえ大変な毎日かと思えます。ご自愛ください。本日はありがとうございました。 |
| 28 | 児童相談所の方のお話を聴く機会、とても貴重でした。学校の先生方に聴いていただく機会も必要だなと感じました。 |
| 29 | 前橋市教育委員会での勤務なので、児相の方とは常に連携しております。 |
| 30 | 学校現場から相談依頼をしてもなかなかフットワーク軽く連携できない。児相の中で担当者が情報共有していないということ、これまでの関わりで何度も感じたので、もっと連携できるようつながり人が必要と思っている。 |
| 31 | 事例紹介は情報量が多くなるので、文字情報やスライドなどで簡単なガイドがあった方が良くと思いました。 |
| 32 | 事例をうかがい、児相が身近に感じました。 |
| 33 | 事例を交えてのお話をなさっていただき、資料+αの充実したことを知ることができました。 |
| 34 | 誰がその方を支えてくれるのか？身近な相談者がいることが大事である。いざという時に頼れる人がいて、援助者の方がいることの大切さを学びました。 |
| 35 | 児相との関わりは何件かあります。虐待、ネグレクト、養育力欠など内容も様々です。今日も午前中、保護者が子どもの不登校で相談したいということで(児相に)同行しました。親は学校に行って欲しい、子どもは行きたくないということで相談したところ、どうも夫婦関係がよくない、子どもの前で父が母に暴言を吐くということで、取りあえず夫婦関係に気を付けるように児相から助言を受けた。また今日は子どもが来なかったので次回は子どもに会う約束をして終えた。 |
| 36 | 児童相談所の具体的な仕事内容を聞く機会が持てて良かった。義務教育を終了している高校生年齢の子どもたちへの支援(就労やその他のサポート)が知りたいです。「傷つき体験」という言葉がとても心に残りました。 |
| 37 | 児相を中心として様々な支援機関のネットワークにより手厚いサポートが実現できると考えています。ただ、相手に任せざる支援依頼がかなり強いところが少々気になっています。(児相の立場もわかりませんが) |
| 38 | 公的な支援も時代の流れに変化した対応をされているんだなあと感じました。(良い方向へ) |
| 39 | 児童相談所は一助保護や虐待対応がメインとなっている現状を改めて知りました。人や時間をもっと保障されて、より窓口機能として繋がりが易いとありがたいと思います。(トリアージやコーディネートの役割として相談したい) |
| 40 | たくさんのケースを紹介して下さり参考になった。児相の役割がわかりやすかった。 |

Q3(2) 取組報告②「SSWによる支援アプローチ」

報告者 東部教育事務所 スクールソーシャルワーカー 石原 晴美氏

| 満足度 | | 人数 | 割合 |
|------------------|----|----|-------|
| 高 ↑ ↓ 低 | 5点 | 25 | 32.9% |
| | 4点 | 37 | 48.7% |
| | 3点 | 11 | 14.5% |
| | 2点 | 3 | 3.9% |
| | 1点 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | 76 | |



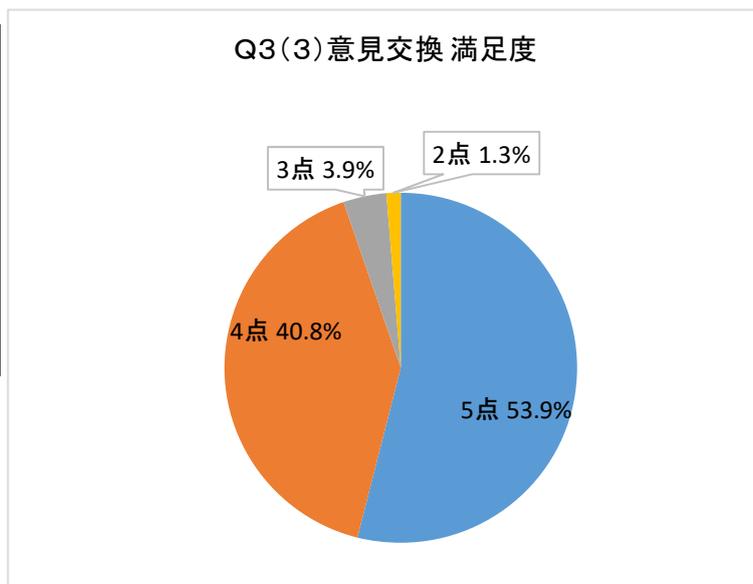
○意見・感想等

| | |
|----|--|
| 1 | 紹介していただいた事例が非常に衝撃的でした。高校の教員にとってSSWはどんな存在がまったくわからないものです。一度ネグレクト・心理的虐待が疑われる生徒の件で県教委に問い合わせSSWを派遣してもらいケース会議を行いました。対応方法について整理できましたが、それだけです。状況の改善は何もできていません。紹介事例のように関わってくれるSSWがいていただける事が何より衝撃的でした。 |
| 2 | 近年メンタル面の不調による不登校や友人トラブルなどとも増えています。SCもおりますが、なかなか医療につながってもらえない事が多いので、派遣型のSSWもありだと思いました。 |
| 3 | SSWらしい関わりがよく分からなかった。 |
| 4 | 助けが必要な児童・家庭と誰がつながるか。以前勤務していた学校でこのようなケースがありました。その時にSSWにお世話になり母親と市役所子育て支援課やハローワークと一緒に外向いてくださったことがあります。協働が大切ですね。 |
| 5 | しゃべりが早すぎて聞きづらかった。 |
| 6 | SSWの支援は学校に不可欠ですが、訪問回数、時間ともに十分ではないと思います。 |
| 7 | 事例をご紹介いただきよく分かりました。他の事例(どのような資源が使えるかなど)もお聞きしたかったです。 |
| 8 | 不登校家庭、経済困難家庭で連携できればと考えています。 |
| 9 | 各学校のケース会議などで協力いただいている。 |
| 10 | 伝えたい内容が多すぎて早口になってしまうのが…。とにかく資料があつて良かった。 |
| 11 | 事例がとても分かりやすく、SSWの役割のありがたさを感じました。 |
| 12 | 連携の具体事例をもっとたくさんうかがいたいです。 |
| 13 | 学校でSSWを活用しているところが現状ではあまりない。学校で活用しやすいよう、もっと啓発していくのも良いと思う。せめてSCの配置が月2(各校)、SSWも全校配置(月1や不定期でも)になって、いろいろな立場の協働が成り立っていくと思う。 |
| 14 | なかなか関わりがありませんでしたが、今回の話を聞いて、訪問したり、助言したり、と様々な支援をなさっていると学びました。 |
| 15 | 毎日、学校や相談機関に何度も電話をかける保護者に対してSSWの方が家庭訪問をたくさんし、就労支援して下さり、パートに出たことで電話をかけなくなった事例がありました。(2年ほど前) |
| 16 | 不登校生徒の家への家庭訪問を9:00~16:00の時間でしていただき、保護者とお話の時間もとっても助かっている。 |
| 17 | 連携していきたいが、家庭訪問へどのようにつなげていくのが良いのか難しいと感じる。心配な生徒、親のところへ急に行ったら信頼関係ができていないので、うまく連携できるとはなかなか思えない。 |

| | |
|----|---|
| 18 | 小学校6年で担任した子どもが中学校に入学してしばらくして不登校になってしまいました。時々小学校に遊びに来た子どもたちから様子を聞いていましたが、直接連絡がとれないまま、結局、卒業後の進路も未定でひきこもっていると聞きました。何か支援できないかと悩んでいました。若者サポートセンターへつなげられたらいいのですが。父親がやや病気がち、母親が外国人、担任の先生との関係が上手くいかず、家庭訪問しても会えなくなっていったそうです。 |
| 19 | 相談してみたいなと思いました。 |
| 20 | SSWの連携の重要性、必要性がとてもよく分かりました。 |
| 21 | 私自身もSSWとして働いているため、家庭訪問の重要性、当事者に寄り添う姿勢、抱えている課題など、共感できる場面がたくさんあった。SSWは生徒が中学校を卒業すると関わりが切れるため、その前にいかに継続支援して下さる機関につなげられるかが重要だと感じている。 |
| 22 | 子どもの支援だけではなく、家庭への支援が必要であることがわかった。 |
| 23 | SSWにつながって欲しいと思う件が数件あるので思い切って連絡してみようと思います。 |
| 24 | 今現在、障がい担当なので連携をとっていない機関もあると思います。しかし、昔息子が不登校の経験があるので考えさせられました。あの頃、親子ともどもここまで話せる機関があったらと思いました。 |
| 25 | SSWの日常の関わりがよく理解できました。猫の対応の話については、行政の対応のよくあるケースだと思いました。担当(窓口)の理解のなさ(生活保護家庭は費用0円)という情報が対応してくれる人によって変わってしまうのは、ねばり強くSSWだから動けたと思います。一般の人では最初の予約の対応で諦めてしまうと思います。こういった研修で情報をもらえるのは大変ありがたいです。 |
| 26 | 複数の事例をうかがってみたかったです。どのようにSSWと関わってというか、SSWにどのようにすると子どもたちがお世話になれるのかもっと教えてもらいたかったです。貴重なお話をありがとうございました。SCが教育現場に広がり根付いてきたようにSSWも広がり根付いて欲しいと思っています。 |
| 27 | 「関係性ができるまで粘り強く関わり続ける」という言葉が印象に残りました。学校では踏み込めない家庭環境の深いところに働きかけていただけるSSWの存在はとても大きいと思います。 |
| 28 | Aさん一家の可能性を信じて関わり続ける！！まさに、そうだと思いました。 |
| 29 | 具体的に「こうすれば良かった」も含めてお話ししていただいたのが良かったです。 |
| 30 | 事例をうかがい「つなぐ人」=SSWの仕事の大切さを痛感しました。 |
| 31 | もっとSSWの活動について知っていただけるといいなと思いました。SSWは学校でお世話になり大変助かりました。 |
| 32 | 家庭訪問の大切さ。その方の背景が見えることで支援の内容も変わってくる。その方だけでなく家族の支援も大切なのだと知りました。卒業後も関わりを途切れることなく継続していく支援をしていく。早めにアセスメントを行いアドバイスをしていくなど、いろいろなヒントをいただきました。 |
| 33 | SSWがここまで関係機関とのコーディネーターとして動いてくださるのは大変価値のあることだと思いました。 |
| 34 | SSWが学校の教育相談部会に入れるといい。前橋ではできている。 |
| 35 | 自分もSSWをしているので、家庭をみたくうえで適切な関係機関を紹介する。また、その見極めも大切だなと思った。 |
| 36 | SSWがどんな仕事をしてるのか初めて知りました。県立学校には同様な支援体制はあるのでしょうか。「尊重する」ことが伴走しやすくなる、家族にとっての幸せとは、の言葉が印象に残りました。 |
| 37 | 講演内容、少し不満足です。SSWとして携わっている現況をお聞きしたかったです。 |
| 38 | 手厚い向き合い方をされていることに胸震えました。 |
| 39 | 群馬県でもSCのように各校配置になってもらいたい方々だと感じます。何をしている人か分からない、どこにいるか分からないという声を親御さんや教員の方から耳にすることも多いので、広がっていただけることを願います。生活が安定しないことで学習が困難になっている子、そのまま大人になってからも困っている方々にとても多く会うので。 |
| 40 | 医療機関勤務のSCですが、学校との連携でSSWとの連携に課題・活用不足があります。今回、SSWがどのように動かれるのか、どういった効果があるのかについて知ることができ、参考になりました。 |
| 41 | SSWの役割、具体例があつて分かりやすかった。 |

Q3(3) 意見交換について

| 満足度 | | 人数 | 割合 |
|------------------|----|----|-------|
| 高 ↑ ↓ 低 | 5点 | 41 | 53.9% |
| | 4点 | 31 | 40.8% |
| | 3点 | 3 | 3.9% |
| | 2点 | 1 | 1.3% |
| | 1点 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | 76 | |



○意見・感想等

| | |
|---|---|
| 1 | 様々な立場の方の意見を聞きながら、教員として生徒の接し方(個人として、組織として)の参考にすることができたと思います。互いの立場の違いを理解するとともに困って傷ついている子どもを何とかしたいという思いが共通している事を改めて理解することができました。 |
| 2 | ASD起立性調整障害で中1の2学期から不登校になった娘がいます(現在中2)。9月に高原学校が計画されており一応参加の返事をしましたが毎日頭痛・めまいを訴える娘を見ているとやっぱり無理かなとお断りしようと考えているところでした。しかし自分(本人)は山登りができるかなど不安になりながらも行く気です。今日の話聞いて彼女の力を信じ、私からは口を出さないとみようと思います。それから石原先生ありがとうございます。教員は未来を見据え叱るのが仕事！と考えておりました。人それぞれ感じ方が違いますよね。心に留め、娘と生徒と向き合っていきます。 |
| 3 | 富樫さん、青木さんの真剣な時間をかけた取組に聞き入ってしまった。官とは違う民の強さを感じた。石川さんのまとめの話が心にしみました。 |
| 4 | チームで関わること。一人二役は難しい(家庭も学校も)。きっかけをつくる側とサポートする側と役割分担が大切であることを教えていただきました。家庭、家族の支援は時間的にも学校では限りがある。もっと他機関と連携していくことがお互いのためだと思いました。 |
| 5 | 素敵な報告でした。でも学校においても向き合う支援、対話する支援、愛情を注ぐ支援をしている教員がいることを知って欲しいです。アウトリーチ、毎日ですよ。学校をひとくりにするととても危険です。鈴木先生の言葉のとおりだと思います。言葉にする、きっかけをつくる人。 |
| 6 | 石原先生、工藤先生、富樫先生、青木先生(子どもと向き合う、見捨てない、あきらめない、子どもから学ぶ、子どもを尊重する)愛情、このような意識を持つと言うことは改めて、受け止める側の大人のセンス(能力)なのかなど思うことがあります。今は様々な価値観が多様化するので本当に一人ひとりへの声かけが大変重要となる。今、勤務する学校で、いわゆる扱いが難しい児童がいます。多くの先生方はいわゆる「型」にはめたがってしまう傾向があり、児童との関係が崩れていってしまう。その子の今の様子を大事に受け止め対話をしていく。この声が必要であり、これからはしっかりと発信していきたい。 |
| 7 | 大変参考になりました。 |
| 8 | それぞれの立場での支援アプローチについて十分理解することができました。また課題について学ぶことができました。一方向だけでなく、多方面からのアプローチが大切だと思います。途切れない支援、チームによる支援が必要なのだと思います。 |

| | |
|----|---|
| 9 | フリースクールの様子をお聞きするのは初めてで興味深かったです。変化(一歩動き出す)までには時間がかかること、工夫がたくさんあること、姿勢など大変勉強になりました。不登校対応には行きづまりを感じたり、投げ出したくなったりすることもあります。時間がかかるものということを心に留め、対話すること、役割分担をしてじっくり取り組みたいと改めて感じました。対話、難しいですが…。 |
| 10 | 鈴木先生のお話を聞いて良かったです。また様々な視点からの取り組みが聞けたので参考になりました。 |
| 11 | 当事者支援に心をくだき時間をかけて寄り添い支えてくださっていた富樫さん、青木さんの本人を尊重した関わりに心を打たれました。ありがたいです。 |
| 12 | ASDでないのに特性を持つ青年の相談について悩んでいたが、今回の「傷つき体験」をもとに考えると理解できた。自分の感情とつき合いきれない青年の相談には「カサブタがとれるまで」付き合っただけで対話していきたくと思います。 |
| 13 | 前橋のODSは知っていましたが…本当に丁寧な支援をされているのだと驚きました。勤務時間って一体どうなっているの!? 週何回訪問されているの?。学校の支援では考えられない、自作のジュースやシュークリームのお味の感想の共有、Aさんは嬉しかったらうなあ、お父さんも。シリウスの活動内容は伺っていたので分かっているつもりでしたが、ゲームOKとか…!、学校ではOKじゃないことで…、そのことが居場所作りの一歩になっているのは強みでもあって、通っている人たちは嬉しいだろうなあと思いました。ODSもシリウスもとても素敵な活動でした。いつか頼りたい…、一緒に活動できたら…!!。鈴木先生の気持ちを「言葉にする力」は本当に必要で大事なのですが…まず読書が…苦手だと本当に難しいです。 |
| 14 | 富樫先生の事例はとても心動かされるものでした。学校ではできない、対応できないものではありませんが、学校と家庭とさまざまな機関が連携できると今までうまくいかなかったものも、うまくいくようになるのではないかと期待できるお話でした。 |
| 15 | 鈴木先生のお話が分かりやすくとても良かったです。進行の石川さんは素晴らしい。まとめも良かったです。 |
| 16 | 様々な立場からのアプローチが参考になった。学校、児相、SSW、NPO等が連携し共有できる場所は共有し、子どもたち、家庭、親を支援していくことが大切であると感じた。 |
| 17 | とても参考になりました。ありがとうございました。なかなか見えない心のキズに寄り添いながら、その子らしい生き方ができるよう少しでもサポートできるようにしていきたいと思いました。 |
| 18 | 長期的な支援の中できっかけのサインを見逃さずに次につなげていくことは素晴らしいと思った。 |
| 19 | 傷つき体験が回復しないままになって積み重なっていくとトラウマになるということについて考えさせられました。それには相談できる人が大切だと思いました。石川先生がおっしゃっていたAIは話を聞いてくれる、しかし対話は人間しかできないという言葉も印象的で、時間の許す限り対話を心がけようと思いました。支援は短期間ではなく、数年がかりになることが多いと感じています。 |
| 20 | 休みがちで教室に行けない生徒の支援を日々手探りのようにしておりますが、先生方の支援アプローチを本日伺い、自分のしていたことは間違っていなかったと少し安心することができました。 |
| 21 | 居場所づくり、さまざまな支援アプローチ、参考になりました。 |
| 22 | 不登校生徒へのアプローチについて、その子に合った方法を考えてみようと思いました。無理させない、でも不安を言葉にできる力をつけるチャンスに変えるという話が印象的でした。 |
| 23 | いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。私も微力ながらできることをしていきたいと思いません。 |
| 24 | 具体的な事例がとても参考になりました。現在登校しぶりの子どもたちへ、学校でもケース会議をして共通理解を図っているがやや限界を感じていました。教育相談担当の立場から外部機関とのつながりを考えていくことも効果的であると改めて実感しました。 |
| 25 | クリニックの先生のお話が大変参考になった。受診したいという児童・保護者が年々増えているが予約がいっぱいで何ヶ月も待たなければならない現状がある。児相やカウンセラー等含めて、気軽に相談できる窓口がもっと増えるとありがたいと思っている。 |

| | |
|----|---|
| 26 | 鈴木基司Drのまとめが秀逸だったと思います。「人と人が時間をかけて出会って築いていくことの大切さ」を前半の事例から感じた。というようなコメントはその通りと思いました。医学的な解説も大変分かりやすく、自分の中でも理解が深まった実感がありました。そして最後の全員のパネリストからのひと言ずつに熱と本音が入って聞き応えのあるコメントになったのも、Drの解説がきっかけに展開していったように感じます。本音で訴える言葉が聞けて心に残りました。 |
| 27 | それぞれの立場や視点の考えを聞くことができて良かったです。 |
| 28 | 富樫さんの事例(2年間の支援の流れ)を拝聴し心を動かされた。居場所となる施設は少しずつできてきたが、そこにつながるまでの地道なODSとしての関わりが素晴らしかった。人と会えない、家から出られない⇒どこにもつながることが出来ない子どもたちが本当に多いため、ODSのような取り組みがもっと広がればよいと思った。支援者自身の傷つき、現場の先生たちの苦悩にも触れていただいたことは大きな救いだったと思う。 |
| 29 | 支援アプローチについて各講師の話を聞くことができて良かった。 |
| 30 | 傷つき体験はほんの些細なことから起こるということが分かった。その子にとってもそれがどのように影響するかも伝わりました。学校では一対一の関わりはこういったことを意識していけるが、全体に向けての指導はどう言葉を発して、伝えたいことを伝えるにはどうしたらいいのか考えさせられた。社会へ出る生徒に向けて傷つきやすい生徒がいて、どうしたら良いのか考えていこうと思う。学校での言葉かけに気を付けて欲しいと言われても、40人40通りの人生がある中で、どの言葉が傷になるのか子どもによって違うなら。他者と関わり自分を知るということは多少のキズもあると思うが、悩ましい、加減が大変悩ましい。 |
| 31 | 複数で関わることの大切さ、個の尊重、いろいろな手立て、一人何役をしているのだろうか、時間が欲しいです。 |
| 32 | 大変参考になりました。子育て中、子どもの部活、顧問に子どもが悩みを打ち明けたら「生きていればそんなこともあるよねー」と言われ、子どもは「この人に話したのは間違えだった」と言っていました。 |
| 33 | 個々人が自分の支援について話しているだけで「意見交換」にはなっていなかった。支援の自慢大会になっていた。 |
| 34 | 学校の先生やそれ以外の支援に関わる人の価値観や人間性によってしまうということ。集団指導の場面では一人の意見や行動を尊重するのは限界があります。何故あの子は許されて私たちは許されないのか、ルールの基準によって、その先生や対応する人の価値観は変わると思います。型や枠にはめる指導はそろそろ限界なのではないでしょうか。不登校という言葉がなくなり、学び方が親・子、本人が自主的に選べる形がベストなんだと思います。フリースクール、公私立義務学校で最低限のコアカリキュラムがあり、全てが同位での選択ができればいいと思います。 |
| 35 | 鈴木先生の最後のまとめがとても良かったです。自分で生かせるところを早速生かしていきたいです。 |
| 36 | 不登校支援には心に寄り添う支援の他に、現実問題として学習支援も必要だと考えます。一步を踏み出す時に踏み出しやすくなるよう学習を進めたい。一方で、本人のやりたいことをやりたいことをやらせた方がいいのではという葛藤もあります。学校では何でもありという訳にはいきません。子ども一人ひとりに合った対応をするのが難しい場面が多くあります。 |
| 37 | 視点をどこに重心として考えていか考えさせられました。立場の異なる方の連携という視点、教育と福祉がよりよくつながるための方法なども知りたかったと思います。 |
| 38 | CCMの富樫さんの事例から粘り強く関わり続ける中で生徒のストレングスを把握し、そこから働きかけ、さらには生徒の自信を取り戻す・・・長い時間をかけて少しずつ歩み寄り、寄り添い、支えていく姿勢に大変感動しました。まなびバ！シリウスの青木さんのいう「尊重＝相手をありのまま認める」とても大切ですが、なかなか実践できていない自分があることに気づかされました。(現場でも家庭でも)「こうなって欲しい」という気持ちを持っていることが、教師として、父として大切だと思っていました。いろいろな考えが湧いてきますが「これをやればいい」という、一定解がある訳でなく、大切なのはまず子どもを理解すること、背景を知ること、ケースを知ること、だから多くの人が手を差しのべ、支援にあたる必要があると感じました。 |
| 39 | 様々な支援場所、支援方法があることが知れて勉強になりました。今、自分が担当する子どもたちにしてあげたいことが見つかりました。ありがとうございました。 |
| 40 | 子育て、教育とは、対話できる人に育てること。常日頃から感じていたことをちゃんと事例を通して伺え、方向性を確認することができました。 |
| 41 | 学校現場では驚くほど多数の不登校もしくは登校しぶりの案件を抱えています。保護者の方との関わりも難しくなかなか結果につながらないことで、自身の無力感に陥っていましたが、今日のお話を聞いて少し安心しました。ありがとうございます。 |

| | |
|----|--|
| 42 | 富樫さんのお話、涙が出そうでした。青木さんの子どもを見る目が素敵です。まずは関係性ができてからですね。「その子のタイミング」がその子にとっての一番ベストのタイミングで来るように「かさぶた」を何度も作らなくていいように関わっていきたいと思う。向き合った時に「今」を大切にする。⇒保健室へ来る子への対応で私も心がけていることです。 |
| 43 | 富樫さん、青木さんの事例発表感動しました。ポイントやキーワードの簡単な資料があると助かります。耳からだけだと聞き逃しもあり不安なので。 |
| 44 | 石川さんをはじめ、いろいろな話を聞くことができ、勉強になりました。 |
| 45 | その人を知ること、互いを知ること信頼関係を築いていく。ありのままを認め、周りの人もありのままを認めていくことの大切さ、見捨てずあきらめず、今を大事にする。声をかけ続け、長い年月をかけ少しずつ距離を近づけていくことで変化していく。ともに一緒に考え、どのように寄り添っていくのか、考えさせられました。 |
| 46 | 本人・家庭の背景を知ること、話を聞くことの重要性を再確認できました。家庭・学校・行政の連携方法など、具体的に知ることが出来参考になりました。傷つき体験の回復、人によって感じ方、プロセスの違いについて、小さい大きいではないこと、改めて学びました。日頃支援しながら表面やマイナス面に視点がいつてしまうことがあるが、このような話を聞くことで振り返ることができました。ありがとうございました。 |
| 47 | 具体的な事例があり、とても分かりやすかったです。石川先生のコーディネートも素晴らしいです。 |
| 48 | 「人として尊重すること」を行動をとしてどう表しているのか、改めて自分の言動を考えました。日々、意識をしっかりと持つ重要性を感じました。ストレングスは何なのか、という支援を考える視点を与えていただきました。 |
| 49 | 支援アプローチのヒントがいろいろあり大変参考になりました。ODS, シリウスでの取り組みがとても心に残るお話でした。石川さんのまとめ方がとても上手で分かりやすかったです。ありがとうございました。 |
| 50 | 「誰も助けてくれなかった」「ひとりぼっちだった」傷つき体験をした人たちが、こういう状況にならるように支援が必要な人の元へ必ず届けられるように環境を整えていく必要性を感じました。 |
| 51 | 日頃子どもとかかわっている中で、五感を使って子どもに近付いていたり、子どもを一人の人間として見立てて自分とその人との関係性、お互いを知る、また関わるのが難しい子に対しての関わり方の話が出てとても参考になった。SSWの仕事は「つなぐ」ことが仕事ですが、その前に子どもや保護者との関係づくりが大切だと思っているので、いろいろな事例の話が聞けて良かったです。 |
| 52 | 学校という場所はじっくりと関わりを持つことが難しい場所、加えてやり直しも難しい場所でもあると感じています。学校以外の場所が増えて社会的に認められると選択肢が増えるのではと強く感じました。集団指導と個別指導の違いも感じました。傷つき体験については、最近では教員自身もそれで病体になってしまう職員が増えています。支援者である教員のサポート体制も必要かと思いました。不登校や高校中退⇒やり直しに対して世の中がもっと寛容になるといいですね。人生長いので、子どもには無限の可能性がたくさんある。！！ |
| 53 | コーディネーターの石川先生の役柄のなかでの発言がとても分かりやすく、さすが見事。「かさぶた」の例え、ストンと落ちました。助言者の鈴木先生のお話、とても理解し易い内容でした。 |
| 54 | 当事者が子ども、大人、高齢者、障害者に関わらず、とりまく環境、問題をどう気付き、見落とさず、何かしら繋げていけることが、主訴の解決に「つながっていく」と感じています。ようやく小さな一歩で出て、声をかけてあげられた事、ここからを大切に出来るように受ける側、支援に繋げられるチャンスを大切に、様々な繋げる糸の支援が出来るよう、知識、ケース学習、事例共有が必要であると感じています。 |
| 55 | 石川コーディネーターの分かり易いまとめにより、より学びや気付きが深まったように思います。かさぶたを取らない！まさにですね。就労支援場面で日々感じていた事が言葉になり納得しました。発表者の方々の事例を通じたご教示が大変参考になりました。どのような支援をされているのか、具体的に知ることができたことで、支援者が孤立しないで繋がるのが、ご本人を取り巻くよりよい支援形成に結びつくことになり、このような研修の機会に参加できたことをありがたく思いました。 |
| 56 | 「非専門性の専門性」支援者の個性を生かしたアプローチ、参考にしていきたいです。 |
| 57 | 心のリカバリーできる居場所、とても素敵な場所だなと思いました。またシリウスさんの「その子自身を見る」という言葉に納得しました。 |

Q4 次回の研修会テーマについての意見・要望

○意見・要望等

| | |
|----|---|
| 1 | 発達障害と思われる生徒に対し、自分の特徴を知ってもらいたいと親御さんにお伝えするのですが、保護者の方も同じような特性を持っていることがほとんどで、なかなか同意が得られません。家族ぐるみで支援するために機関との連携方法を知りたいです。 |
| 2 | 自傷行為をする子を減らしたい。 |
| 3 | 教育、子育てに公式はない。底辺×高さ÷2で答えは出ない。だからこそ難しさもあり、だからこそやりがいがある。そこにはその時、その時に頑張れた「輝き笑顔がある」。これを見たいがために日々教育、子育てに力を注ぎたい。 |
| 4 | 大人にフォーカスしたテーマをお願いしたいです。 |
| 5 | 不登校、いじめの対応事例について |
| 6 | 東毛地区研修会なので、関係各機関の連携を深められるとよい。事例をもとに各機関の役割やつながり方を明確にしたい。 |
| 7 | 発達障害のある子を抱える家族の支援、乳幼児期～思春期～青年期～成人期～中年期 |
| 8 | 典型的な事例と特異な事例の紹介、報告。 |
| 9 | 最近8050の問題が取り上げられていますが、その50代の方はおそらく、不登校からはじまっているのかもしれませんが。50代になって支援するより、小学校、中学校の時から支援が入ることにより、長い人生の中で生きやすい環境が整うのではないかと感じました。今回、いろいろな先生方のお話を聞かせていただきありがとうございます。 |
| 10 | 発達障害よる2次障害(不登校)の支援 |
| 11 | 具体的なお話が聞けて良かったです。支援のエネルギーに感服です。 |
| 12 | 不登校・ひこもりの児童生徒への支援アプローチについて大変勉強になりました。今までもスクールカウンセラーの方とは連携を図っていましたが、さらに外部機関の方との連携を図っていく必要性を感じました。 |
| 13 | 実際の社会資源活用をもう少し具体的に知りたかった。こんな時に〇〇を利用した。〇〇に相談して連携した。 |
| 14 | テーマとして直接かわかりませんが、形式として今回のように二部構成で、後半に意見交換、助言者に鈴木基司先生でお願いできれば実り多い研修会になると思います。 |
| 15 | ヤングケアラーの具体的な事例について |
| 16 | どこにもつながらない、医療にもかかれぬ、家族以外と関われない、ひきこもりの子どもたちへのアプローチ、支援方法について |
| 17 | 事例報告について大変参考になりました。できればその資料があれば見返すことが出来るのではないかと思います。 |
| 18 | 様々な立場の先生方からの事例は大変勉強になりました。自分自身を振り返るきっかけになったと思います。こうしたことをしっかりと考える必要がある生徒が増える中で、今後を考える大変良い機会になりました。石川先生の言葉はいつも温かく心に染みます。ありがとうございます。 |
| 19 | うまくいった事例だけでなく、思うようにいかなかった事例もあると今後の対応に生かせると思います。特に保護者との年齢、考え方のギャップを感じています。 |
| 20 | 折角東毛地区で開催されているので、東毛地域の資源について紹介してもらいたい。 |
| 21 | 参考になる文献なども紹介していただくとありがたいです。 |
| 22 | ADHD(周りを困らせ受け入れられなくなってしまう)の支援していくべき道筋、事例を知りたい。 |
| 23 | 自分が関わっていない領域の方々の実践、工夫、思いを聞かせていただくことができ大変参考になりました。 |
| 24 | 学校ができること、民間ができること、行政ができること、誰がどのようにつなげていくか、家族との向き合い方 |
| 25 | 鈴木先生の丁寧な分かり易い解説が身に染みました。 |
| 26 | 貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。今後の仕事につながるように参考にしていきたいです。 |
| 27 | 今回のような研修会をまた聞きたいです。 |
| 28 | 大変勉強になりました。ミュさん、シリウスさんの話を聞いて、公、民の連携が進むといいなと思いました。 |
| 29 | キズつきについて、現場に立つ人と医療の立場から報告があり、とても良かったです。 |
| 30 | 不登校のお子さんのいる家族の向き合い方について深掘りしていただきたい。 |

| | |
|----|--|
| 31 | もっと会場からの意見を休憩時に集計できるとよい。 |
| 32 | 仕事ばかり立て続けにがあると、子どもの気持ちに寄り添うということより”仕事をこなす”ことが先走りしてしまう。このような講演会で子どもに寄り添うことの大切さを再認識しました。ありがとうございました。今回、ひきこもりの話がなかったので、不登校から続くひきこもりの話も聞きたかったです。 |
| 33 | 学校現場での不登校・ひきこもり支援の仕方も追加で教えていただけるとありがたいと思います。 |
| 34 | 様々なケースでの支援を支援先、繋がり的好事例、失敗事例(大人、子ども、老人、障害者)があったらいいなと思います。 |
| 35 | ZOOMでも開催して欲しいです。 |